

平成28年産水稻の生育状況について（7月1日現在）

1 生育概況及び今後の管理

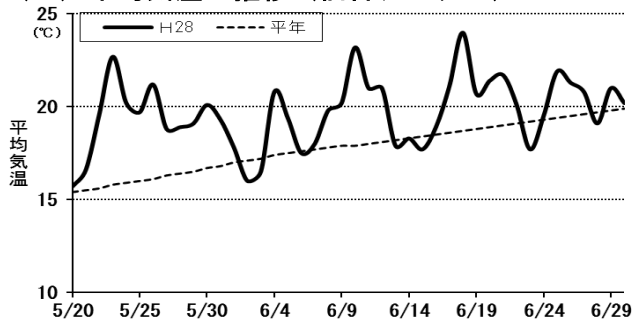
- 気温が平年より高く推移していることから、水稻の生育は概ね順調であり、葉数（平年差+0.2枚）からみると平年に比べて1～2日程度進んでいると思われる。
- 生育調査ほの県全体平均は、草丈が52.3cm（平年比106%）、1㎡当たり茎数が520本（平年比94%）であった。
- 間もなく幼穂形成期*（県平均の平年は7月9日）を迎えるが、今後、低温が予測される場合（平均気温20℃以下または最低気温17℃以下）には、幼穂を保護するための深水管理（水深10cm程度）を実施するよう指導している。
- 今後、葉いもちに感染しやすい気象条件になりやすいことから、水田をこまめに観察し、葉いもちの発生が確認された場合には適切な防除を行うよう指導している。
- 水田周辺の斑点米カメムシ類の密度を低くするため、水田畦畔の草刈りは水稻の出穂10日前（平年では7月26日頃）までに終わるとともに、周辺の雑草の草刈りは7月20日頃までに実施するよう指導している。

*幼穂形成期（ようすいけいせいき）

「若い穂」が稲の茎の中でつぐられ、1mm以上の長さになった時期で、出穂（しゅつすい：穂が出ること）の25日前頃からである。（例えば、幼穂形成期が7月10日とすると、出穂日は8月4日頃と予想できる。）

2 具体的データ

(1) 平均気温の推移（仙台アメダス）



(2) 旬別の気象データ（仙台アメダス）

	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年比	平年比		
5月	17.0	2.0	87.5	80%	208.1	112%
6月上旬	18.9	1.3	3.0	9%	79.7	142%
中旬	20.2	1.7	50.5	108%	40.6	91%
下旬	20.3	1.0	104.0	159%	31.6	95%
6月	19.8	1.3	157.5	108%	151.9	114%

(3) 生育調査結果

a. 県全体

県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年(cm)	前年比(%)	平年比(%)	本年(本/㎡)	前年比(%)	平年比(%)	本年(枚)	前年差(枚)	平年差(枚)	本年	前年差	平年差
	52.3	102	106	520	93	94	9.9	▲0.1	0.2	43.0	2.9	2.2

b. 地域区分別

地域区分別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年(cm)	前年比(%)	平年比(%)	本年(本/㎡)	前年比(%)	平年比(%)	本年(枚)	前年差(枚)	平年差(枚)	本年	前年差	平年差
	北部平坦	52.0	102	106	558	97	98	9.7	▲0.1	0.1	43.3	1.9
南部平坦	59.3	99	107	491	86	87	10.0	▲0.7	▲0.2	41.9	4.0	1.8
仙台湾沿岸	53.0	107	(119)	485	98	(125)	10.1	0.2	(0.8)	43.1	4.6	(2.3)
西部丘陵	51.7	97	102	474	85	88	9.9	▲0.1	±0.0	43.0	2.8	3.1
三陸沿岸	46.1	97	104	498	77	80	9.9	▲0.3	0.5	41.1	4.4	1.6

c. 品種別

品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値		
	本年(cm)	前年比(%)	平年比(%)	本年(本/㎡)	前年比(%)	平年比(%)	本年(枚)	前年差(枚)	平年差(枚)	本年	前年差	平年差
	ひとめぼれ	52.2	101	105	488	91	92	9.9	▲0.2	0.2	43.2	2.6
ササニシキ	51.4	106	110	611	102	104	9.8	0.1	0.2	41.9	3.5	1.8

※平年比・平年差：前5ヶ年（平成23年～27年）の平均値との比較

※b. 地域区分別の仙台湾沿岸の平年比・平年差の値（ ）は、調査ほ場の変更によりサンプル数が少ないことから参考値として表記。

※次回は7月11日現在の調査結果を7月12日発表予定です。